

べて明らかかなように生活年令を同じくする精神薄弱児と正常児の間では色彩、手の運動、手の使用部位、描画中の水、手拭の使用、描画時間、ペイントの占める面積及び表現内容等において有意差が認められる。ここに示される差は、生活年令を同じくする両者間の結果の相違であるから他の色々の要素を含めた知能年令の差によって生じた結果であると考えられる。

次に知能年令を同じくした精神薄弱児と正常児間においても生活年令を同じくした場合ほどの差はみられないが、色彩、手の運動、描画時間及び Paint の占める面積において有意差が認められる。

ここにみられる両者間の結果の差は、前と同様他の色々な要素をも含めた生活年令の差の影響によるものであると考えられよう。このように精神薄弱児と正常児の比較において Finger-painting にくつつかの差が示されたが、両者の知能年令の条件の操作によって得た結果からは、生活年令よりも知能年令の影響がより大きいと云えよう。

以上は精神薄弱児と正常児における比較であるが、次に精神薄弱児間の比較においては知能年令が高くて生活年令の高い群と低い群知能年令が低くて生活年令の高い群と低い群の四群の比較を試みたが、何れの比較においても、結果に統計的有意差は認められなかった。第一回の我々の発達の研究では正常児の比較群間に多くの指絵の差が見られたが、今回の研究における、即ち精神薄弱児間の発達の研究には、この様な正常児の場合に見られる結果がみられないということは精神薄弱児には、対象とした人数の少ないことを考慮せねばならないといえ、生活年令や知能年令によっては動かすことのできない精神薄弱児に共通なものが、年令以外の何か共通した要素が存在しているのではないかということが暗示されたのではなからうか、今回の実験においては、実験対象の精神薄弱児が養護施設に収

容されていて、特に知能の低い子供には、多少指絵の経験があったのでその練習効果や年令差の少なかったこと等今後尚研究される余地が大いに残されていると思われる。なお、Finger-painting の分析のカテゴリーについても更に考察すべきものがあると思うが、之については今後更に追求してゆきたい。

## 遊びの調査

名古屋市立保育短期大学

甲斐久生・成田錠一

沢田みちる・杉浦正枝

佐藤典子

保育計画の基礎資料を得るため、保育園児の実態調査を行ったが、私共は幼児の社会性発達段階を究明する資料として、遊びの実態を観察調査した。茲にその概要を報告する。

観察の対象は「I」表にあげた通り、市立保育園三ヶ所から、四才児・五才児・六才児計一二〇名をランダム表から無作為に選び出した。

観察の時期は十一月中旬から一月下旬まで、冬季に於ける約二ヶ月間である。

観察の場合は、屋外又は屋内で自由に遊んでいる所―予め何等特別の配慮も加えない、自然のままの姿を観察した。尤も自由時間になってから五分間位を経て、子供達が盛んに遊び始めてから調査を行った。

観察の方法は、観察者三人が一緒に、同じ子供を一分間観察して

[1] 遊びの対象

園名	全 体 計			四 才 児 計			五 才 児 計			六 才 児 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
A	29	19	48	5	1	6	7	8	15	17	10	27
B	22	20	42	5	2	7	8	9	17	9	9	18
C	17	13	30	2	0	2	6	3	9	9	10	19
計	68	52	120	12	3	15	21	20	41	35	29	64

は、用意した観察票に各自が記入していく。同じ子供について日を変えて五回宛行つて完結した。

観察事項は、第一は遊びの型であつた。それはパーテン氏の六つの型―即ち何もしない行動(U)・独り遊び(S)・傍観的行動(O)・並行遊び(P)・連合遊び(A)・協同的組織的遊び(C)の六つを用いた。第二はその時の仲間の数、第三はその時の遊びの種類を調べた。

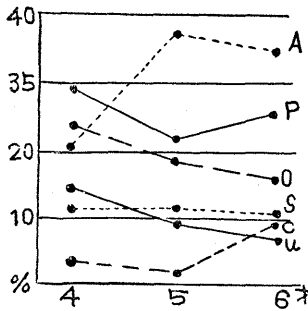
この観察票の記録を色々の角度から眺めて統計的に整理し、保育計画の基礎資料にしたいと企てた。これからその整理結果の概要を述べたいと思うが、それより先に私達の観察結果の信頼度を述べよう。一分間の行動観察においての一致度、即ち観察結果が三人共一致した回数率は九六・二五%で可成高い成果になつた。

これは観察前に何回も予備的テストを行い、細かに打合せた事と、疑問の起き易い複雑な遊びに就いては、最初の間その都度打合せしたので割合によい結果が得られ、意気込んでこの処理をした。

末尾に掲げた「Ⅱ」表(略)は遊びの型を取りまとめた結果であるが、その中から二三の点を取り上げてみよう。

(1)全体から見ると、連合遊びが三三%、独り遊びが一〇%、何もしない行動が八%、協同的組織的遊びが六%の順になつてゐる。

(2)更に年齢別の実態を図示すると「a」表のようになる。何もしない行動・傍観的



[a] 遊びの型 (年齢別)

(1) 仲間の数は園児が作つて

多くの子供の中には、その個性によって、この芽ばえを表現し得ないで居るものも相当ある事は、見逃してならない重要な点である。

次に遊びの仲間就いて取りまとめたのが「Ⅲ」表(略)である。

行動・独り遊びは、年齢が進むにつれてだんだんと低下し、連合遊び・協同的組織的遊びは年齢と共に高くなる傾向にある。連合遊びは五才児で急に高まり、六才児で却つて稍下る結果になつたが、これは協同的組織的遊びに於て五才児は稍下り、六才児で急になつてゐるためかと思われる。

(3) 男女別の実態を表示しますと「b」表(略)になる。男女共全体の順位とほぼ同じで、連合遊び・並行遊び・傍観的行動・独り遊び・何もしない行動・協同的組織的遊びの順になり、連合遊びは約七%、並行遊びは約三%の方が高くなって居り、他の遊びは、男の方が一%位高い比率を示している。

以上の統計はブラック氏の調査結果と較べて多少の相違があるが、これは民族も異り、社会訓練も違つた幼児の調査であるから、当然の事であり、これが名古屋市の幼児の実際に近いものである。何もしない行動・傍観的行動は、四才児・五才児・六才児と長ずるに従いだんだんと少くなり、連合遊び・協同的組織的遊びは、長ずるに従い多くなる事実から、個人遊びから集団遊びへ次第に移りかわり、仲間を求める社会性の芽ばえが、行動の上で表われて来たことを如実に示している。然し

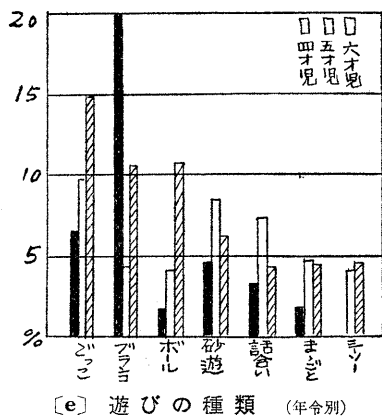
いたグループの人数に基いてまとめてみた。二人仲間の者が二〇％強、一人遊びが二〇％、三人・四人のグループが一五％、五人仲間が一〇％、六人以上の者は極めて低い率であつた。

(2) 仲間の数毎に年令別の変化を表示して見ると、「c」表(略)のようになる。四才児では一人遊びが一番多く、二人・三人遊びがこれにつき、四人以上は極く稀である。五才児では、一人遊び・二人遊びが最も多く、三人・四人・五人遊びがこれにつき、六人以上は極く少い。六才児では、二人遊びが最高で、一人・三人・四人・五人遊びがこれにつき、七人以上は極く少い。各年令間の比率を見ると、一人遊びは年令順にだんだんと減つて居り、二人遊びは五才児では増えるが、六才児では殆んど変りない。三人遊びは年令順に減つているが、これは五才児・六才児の四人以上のグループの率が高かつた関係から生じた結果であると思ふ。四人乃至八人の遊びは、五才児・六才児と夫々急に増えている。九人以上の遊びは極めて少く、年令差も殆んどなかつた。

(3) 男女別と仲間の数との関係を表示すると、「d」表(略)のようになる。一人遊びは男の方が稍多く、二人・三人遊びは女の方が稍多い、四人以上では大差がないが、大きいグループでは男の方が多い、即ち女の児は、二人・三人の仲間を作る傾向が現われてくる。園児の仲間は二人乃至四人位が普通で、その数は年令と共にだんだんと増えて行く傾向が現われ、園児の社会性は貧弱ではあるが、少し宛伸びて行くことが認められる。

次に遊びの種類について多い順にまとめたのが、「四」表(略)である。

(1) 全体的に眺めると、傍観的行動・何もしない行動が比較的に多かったが、これは冬の寒さのため、園児の活動が少し鈍かつた事に原因するものと思われる。今傍観的行動の一六％、何もしない行動



[e] 遊びの種類 (年令別)

の八％を除いて、遊びの種類を考慮して見ると、ごっこ遊びの一二％が首位で、ブランコ遊びの一〇％、ボール遊びの七％、話し合いの七％の順になっており以下は、人形遊び・積木遊び・かくれんぼ・水遊びであつた。

(2) 割合によく行われていた種目を年令別に眺めて見ると、「e」表のようになる。四才児では、ブランコ遊びが第一位を占め、ごっこ遊び・砂遊びの順、五才児では、ごっこ遊び・砂遊び・話し合いの順、六才児では、ごっこ遊びが首位で、ブランコ遊び・ボール遊びの順になっている。全然行われていなかった遊びには、四才児では、人形遊び・かくれんぼ・たき火・歌遊び・ナワ飛び・かけっこジャンケン遊び・シュー・五才児では、積木遊び・人形遊び・折紙遊び、六才児では、積木遊びで、一般的に遊ぶ子供の割合も、遊びの種類も、共に年令の順に増えていった。

(3) その種目を男女別に表示すると、「f」表のようで、概して男の方が高いが、ボール遊び・ままごと遊び・シューは女の方が高い率を示している。全然行われていなかったのは、男では人形遊び、女では積木遊びだけであつた。以上のように大観あつたが、更にその内容方面に就いて二三述べる。

(4) 幼児の社会性及び想像力の発達に關係の深いごっこ遊びに就いて、細かくその内容を検討すると、男女によって大分違っている。即ち男は、チャンバラごっこ・警察ごっこ・おぼけごっこ・狼ごっこ・鉄砲ごっこ・電話ごっこ・汽車ごっこ等その種目は沢山で変化に富み、且つ、動的なものが多くようだ。女はままとごっこ・お家ごっこ・お母さんごっこ等大体きまった遊びにかたより、而かも、静的傾向の強いものが多いようである。

(5) 次に園に備えつけられている遊具の利用であるが、ブランコ・砂場・シーソー等は、割合によく使用されるが、ジャンクルジム・タイコバシ・スベリ台等は、利用度が割合に少いようであった。人形遊び・紙折遊び等が少なかったのは、園で自由に与えられていなかった為かと思う。又水遊びの少いのは、季節的な關係によるものだと思われる。

私達はこの遊びの調査をして、子供の遊びの型・仲間の数・遊びの種類等が、人により、年齢により、性別によって大變違つて居ることが明らかに看取された。

以上で私達が行つた遊びの実態調査の結果報告を了らせていただく。

## 玩具に対する子ども の要求について

西南学院短期大学

高橋 さやか

一、研究の動機及び目的

玩具が、子どもの成長に与かる相当に重要な資料であることは論を俟たないと思う。特に、子どもの自発活動を重んずる保育者としての立場から、玩具に対する子ども自身の要求を、できるだけ実態に即して明らかにし、よりよい成長のための資料を少しでも豊富に与え得べき方途を見出したく願つた。

### 二、方 法

別紙A、Bの調査紙に、都市部二百余名、農村及び鉱業地帯五十余名の主として母親に記入を依頼し、加えて、幼稚園及び保育所の教諭保育が観察または面接応答等によってメモしたものを資料として、実態を把握しようとしてめた。

#### おもちゃに関する調査 (A) なまえ ( )

一、お子さん(男女 才)のポケットにいつも入っているおもちゃについて。

(1) ポケットにいつも何か入っていますか。(○印をつけて下さい)

はい

いいえ

(2) 時々入っている

入っていないもの

小石 ろう石 めんこ(パッチン) 釘

(注意) ポケット調べは、お子さんと一緒にされても寝ている時等にされてもなまり易い方法でして下さい。入っているものにつけて下さい、又ポケットにもものを入れて

は、汚いと云つて叱つたり等なさらぬで下さい。

困る事実を発見されたときは、一応園に御相談下さい。

今迄知らなかつた事に気がつかれて急にお子さんへの態度をお変えになってはいけません。

二、お子さんが特別に大切にしているおもちゃ、道具がありますか  
どんなのですか

三、子供のおもちゃ類の整理や保管について、  
○子供が自分できちんとしている。

○入まかせ  
○したりしなかつたり気まぐれ

四、其のほかお子さんのおもちゃの扱い方でお気づきの事があれば書いて下さい。